

銀色の道

夢叶うまで挑戦

学志舎 塾長 山田勝登

今回のトピックス

- ◇塾長の反省
- ◇中体連
- ◇編集後記

塾長の反省

「銀色の道」を打ち終えたのが4日の日曜日。コピーしてセットして配り始めたのが火曜日でした。やっと終わった～、と思ってゆっくりしていた水曜日の夜の事です。

塾が終わり帰宅後、串田先生にいただいた小冊子「幸福を呼ぶ方法」を三たび読みました。読み終えた後、頭の中にVol.5の「懇談会より」の前半の内容がふと浮かんできたのです。すぐに教室に行き「銀色の道」を読み返しました。

すると、なんて高慢な、えらそうで恥ずかしい内容を書いてしまったのだろう、と後悔の念がわいてきました。

「やる気のない授業、生徒に対して情熱のない、いい加減な授業しかできない、困った先生…」 「お前はいったい何様だ！」といわれそうな書き方。中教審に対しても、まるで「あれはいや、これはいや」と駄々っ子みたい、昔の社会党のように、ろくな対案を出さずにぶーぶー文句いつているだけ。本当に穴があったら入りたい気持ちです。

私のような私教育が、公教育以下だと存在

価値はありません。ですから私は公教育よりハイレベルなコーチングとティーチングを、本気の教育を実施していることは自負していますが、それにしてもなんて居丈高でなまいきな書き方なのでしょう。反省しきりです。



「困った先生」にしても、子供の教育に意欲がわかなくなったとしても、他の仕事にかけては長けているかもしれません。あたかもすべてが「だめ人間」のような印象で書いています。

普通の会社勤めの人でも、会社の中で適材適所に別な場所へ人事異動があったり、またやりたいことが違ったりして、別の会社に転職する人もいます。公務員の場合はいろいろな面で民間とは違う状況がありますが、教師という職業にむいていないと本人が思えば、またはその職に情熱をもてなくなれば、他の職場へ公務員として移れるような制度を作ればいいんですよね。

逆に、現在校長先生を民間から募集したところもあるように、教師になりたい人を、本気で子ども教えたいと思っている人を他から採用すればいいと思います。

なんで私は感情的にあんな文を書いたのか、それは子供の教育に携わることは、非常に重要な仕事だからです。一番大切な時期なんです。非常に影響を受けやすく、良くも悪くも先生しだいでもなる時期なんです。子どもは我々が老いた後の、これからの日本を背負って行かなければならないのです。

そういった子どもたちだから、ちゃんとした環境でしっかりとした教育が必要なのですが、懇談会でお母さんの話を聞いて、やっぱりまだまだいるんだな〜と思うと……。それと霞ヶ関のお方の相変わらずの小手先の処置……。

「人材」には程遠く、「人在」ならまだまし、はっきり言って子どもにとって「人罪」である人種には、私にはどうしても我慢がならなくて、ついつい感情的になってしまいます……。

私事ですみません。私の母は78歳です。かつて中学校の数学の教師でした。小学校のころ母が洗濯をしていた横から「どうして先生になったの？」と聞いたことがあります。

母の答えは、小学校のころ、貧富の差でえこひいきしていた先生が何人かいて、目に余る授業をしていたそうです。これではいけないと思い、自分が教師になって「どんな子にでも公平な態度で授業をするんだ」という強烈な思いで、一生懸命勉強をして、当時の愛媛師範学校に入学したということでした。そう話してくれた母

を、私は誇りに思っていました。また近所の年下の子どもの何人かのお父さんに、母の教え子がいて「お母さんはいい先生だった」「中学時代お世話になった」と言われる度に、母の顔がまぶしく思えたものでした。

私が小学校1年生のときの経験をお話します。今から40年も前の話です。担任は40代のK. Iという女性の先生でした。

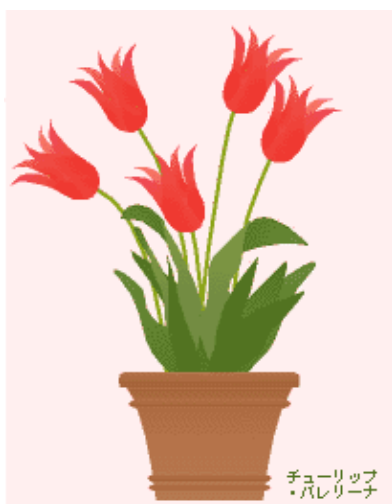
入学してからすぐにチューリップの絵やお日様、雲その他が描いてある1枚の厚紙が全員に配られました。チューリップの花びら、茎、葉っぱ、お日様他にはすべて番号が打ってあり、終礼のときに、4月の9日なら⑨の番号のところに色を塗って帰るのです。1ヶ月で1枚の塗り絵が完成するようになっていました。

お日様を赤で塗り、雲を白で塗り、葉っぱを、茎を緑に、そして1本目のチューリップの花びらを塗る日、私の選んだクレヨンの色は「青」でした。なぜかって、私はもちろんチューリップの花の色に「青」なんて無いことは知っていました。なぜかそのとき「青」のチューリップがあればきれいだろうな、と思ったのです。それと同時に「青」に塗る生徒は他にいないだろうな、と周りを見回し、皆の「赤」を確認して、内心少しワクワクしながら塗ったのです。

見回っていた先生は、私の横で足を止めました。そして「山田君、青いチューリップって見たことある？」と聞いたのです。もちろん私は「ありません」「じゃあどうして赤で塗らないの？」私は「青」のチューリップがあつたらきれいだと思って塗った、と言ったのです。

ここからが問題なのです。先生は「ない色じゃなくてちゃんと赤で塗りなさい」と言いました。そこで素直に赤で上塗りすればよかったのですが、私は先生にどうして無い色を塗ってはいけないのか?と聞いたのです。無いのを承知で、自分がきれいだと思った色に塗ってどうして悪いのか?自分の塗り絵に自分が好きな色を塗ってどうしてだめなの?と心の中で。

虫の居所がわるかったのか、すぐに言うことを聞かない私にいらだったのか、先生はみんなに「青のチューリップを見たことがありますか?」と聞いて「青いチューリップは無いですね」と言って、私一人が「青」に塗っていることを、皆にまるで悪いことをしているかのように、言い始めたのです。



いくらノー天気でお気楽な私でも、さすがに泣きたくなくなってしまいました。泣くのをこらえ仕方なく、青に塗ったチューリップの上に赤のクレヨンの色を重ねました。

いやいや塗らされた青でもなく赤でもなく、にごった変なチューリップの色と、目が釣り上

がった先生の顔を、私は今でも忘れることができません。おまけに言うと、私が座っていた当時二人がけの机は、1年竹組の一番左端の前から3番目だったように記憶しています。私は机の右側で、左隣の女の子の事は覚えていませんが、私の右に先生が立って、強い口調で言ったときのクラスの様子というか、先生の姿勢しに右側に見えた情景が今でも忘れられません。それだけショックで強烈に覚えているのです。

皆さんどう思いますか?

私だったら、そんな事情で塗っているなら、それを認めてあげますね。逆に「変わっていていいね!」なんて言うでしょうね、きっと。間違ってもみんなの前で非難して塗らせよう、なんてけちな考えはもちません。

私が泣きたい気分だった、あのような事をしては絶対にいけないのです。教師として児童心理学なんて次元のものではなく、普通の大人として子どもがどう思うか、誰だってわかるじゃありませんか。6歳の入学したばかりの子どもなんですよ…。

今でも私の耳には似たような先生の話が入ってくるのですが…。

一部の生徒は聞いたことがあるでしょう。私が「自分は自分、人は人。例え99人が黒だと言っても、白だと思えばそれを言い通す勇気を持ちなさい。しかしそれが間違いだった場合は、自分の過ちをすぐに認める勇気を持ちなさい」と言ったことを。そして「あなたは どうする? じゃあ私もそうする」ではなくて「私はこうす

るけど、あなたは どうする？」になりなさいと。

何が言いたいのか、キーボードを打ってる私自身がわけが分からなくなってきました…とにかく…Vol.5 のその部分について読んで後悔して反省していることと、なぜ私が感情的に書いてしまったのか、という訳を書くつもりだったのですが、なにやら変な方向に向いてしまったようです。分かりにくくてすみません。しかし、冊子を読んでこのようなことを感じさせてもらったことに感謝、感謝です。

中体連

Vol.5 の「デジカメ」のところで書きましたように、今年も塾生の中体連の応援に行ってきました。今まで実はテニスだ、野球だと屋外の競技を多く見てきて、屋内はあまり見たことが無かったのです。

今回はまず剣道の応援です。長良中、伊奈波中の生徒が頑張っていました。



「明鏡止水」伊奈波中S君
弁当を食べるときも

今まで私は娘のスポ少のバレーを見に行き、体育館の蒸し風呂状態をよく知っていたので、剣道はあの防具をつけてあの暑さだと厳しいな、と思ってアリーナにいくと、なんと冷房が

効いているではありませんか。持っていった学舎特製「必勝うちわ」は無用のものとなりました。



Mさん
出番を待つ岩野田中学

結果はともかく、みんな頑張っていましたね。しかし、中体連に1・2年生の大会があるってとてもいいことですよね。練習の励みになります。



友人と話を
する
長良中学O君

剣道の応援の最中に、長良中3年のバスケ部のNさんからメールがはいりました。

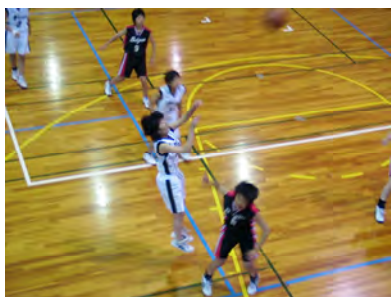
「試合勝ちましたよ〜〜！！ 101-2で圧勝(´o`)明日は青山と試合です。時間は10時15分からです。明日も絶対勝つぞ〜！」

ふむふむメールがはいったからには行かねばならぬ、生徒が私を呼んでいる！?

翌7月17日(日)に私は西部体育館へ向かいました。あそこは駐車場が少ないのが欠点ですね。30分くらいぐるぐる回って、空きが無いので仕方なく近くの道路に路肩駐車しました。

試合前の練習、気合が入った生徒の顔。見ていて鳥肌がスーッとたちます。毎度のことなんです。が、「青春の汗」って私は大好きです。「真剣な眼差し」もう何物にも変えがたい宝物のようなものですね。

試合は予定時刻を30分遅れて開始。開始直後から長良中のディフェンスが甘い。パスミスが目立ち、カットされる場面がしばしば。



ジャンピングシュートを打つKさん

第2クォーターを終えてダブルスコアで劣勢。ハーフタイム。先生の檄に真剣な顔つきで聞き入る子どもたち。



ハーフタイム。「必勝うちわ」でKさんをおおぐNさん

第3クォーター 攻撃のリズムがよくなってきた。一時10点差近くまでつめる。しかしここぞというチャンスの際に、カットされ逆に点を奪われる悪い展開で、じりじりとまた点差が開いていく。



フリースローに集中するTさん

そしてそのまま第4クォーターが終了。彼女たちの早い夏が終わった。

私が階段を下りると、ちょうど彼女たちがコートから出てきたところでした。Kさん、Nさんはにこやかに出てきました。「あれ、塾長来たの?」「おう、残念だったな。ま、しょうがね～な、お疲れ!」と声をかけました。

その後出てきたTさんは、泣きじゃくっていました。一人ほとんどず～っと出っぱなしで、走りっぱなしだったんですよ。私に気づいた彼女「じゅっくちょう～」と声にならないような声。私は背中をポンポンとたたいて「ようやく、ようやく頑張った」何かもっと声をかけようにも、胸がいっぱいになりそれ以上の言葉が見つかりませんでした。

いや～青春って、ほんと～にいいですね。

(水野晴男調で?)

年々遠ざかる青春の影を、私は毎年この時期に塾の子どもたちのおかげで、新たに呼び覚ますことができます。あの全身鳥肌の立つような感動、涙が出そうになるような、そんな体験をさせてもらえます。

子どもたちに感謝。

編集後記

外が少し明るくなってきました。もうすぐ朝です。

メールをいただきました。

今晚は〇〇の母です。中略 いただいた授業カルテありがとうございました。 中略 〇〇の漢字嫌いには困ったもので、今日もお風呂で書かせていました。が途中で泣き出してしまいました。これからも何回も書かせようと思っています。中略 ニュースレター、とても楽しみにしていますので、またよろしくお願ひいたします。それでは失礼いたします。

私の返信です。

メールありがとうございます。ニュースレターですが金曜日に持って帰ってもらいます。子どもを習慣づけることは大変です。他人の言うことは聞いても、親子となると感情がはいつてしまい、難しい面があります。我が家も、家内が「ギャーギャー」子どもに叫んでいます。いつかは分かってくれるのですが、早く分かってもらいたいのが親心。いっぺんに大きな前進は求めず、去年よりは今年、先月よりは今月、先週よりは今週というように、少しずつでも進歩があればいいじゃないか、不満かもしれないけど少しの進歩でも認めてやって、褒めて木に登らせろ、と私は家内に

言っておりますが…なかなか…。

子育ては本当に戦いだと思います。(特に我が家のような場合) ふと、つらそうな子どもの顔を見ると「まーいいか」と親の姿勢がぐらつきそうになることがあります。大切な子どものことです。お互いに頑張りましょう。

ありがとうございました。

私はこの6月、長男と取っ組み合いのケンカをしました。理由はさておき、へらず口をたたいた瞬間、私は息子にビンタ。初めて息子は私に飛びかかってきました。中3ともなると、さすがに力が強くなっています。身長も私と変わりません。

私はずっと動きを押さえようと必死。息子はヘッドロックされたまま、私に膝蹴りにパンチ。しかし、彼のパンチは私の顔面に一発も飛んでこない。蹴りももちろん痛いのですが、致命傷にならない強さであることが感じられました。

そして十数分後、私は息子に言い分を言わせ、私の思いをすべていいました。いままでもそうです。ビンタしたとき、放り投げたとき、いつもそうです。真正面から向き合って、言いたいことを全部聞いて、私の言いたいことも全部言います。お互いにあとに残すといけないからです。本気で向き合います。1時間でも2時間でもお互いが納得行くまで話をします。

子どもに対しては、状態が悪いときこそ逃げないで、真正面から本気で本音でぶつかっていく。これからは私はそうするでしょう。全く参考にならない話ですみません。では次号まで。

Climb965@msn.com 塾長 山田勝登